

4月の牛の状態

「4月風、古毛飛び交う、衣替え」栄養状態が悪くても、4月には被毛の毛がわりが始まり、体の機能が動きだす。

「痩せ、デブも、4月の風は、葉なり」どんなに栄養状態が悪くても、4月の声が聞こえてくると牛の体調は変わってくる。ホコリを被った古毛が抜けて、牛はきれいになってくる。野外の風に触れさせて古い毛を吹き飛ばしてきれいにしてやる。そこに人の手を入れて、ブラッシングでもしてやれば、見違えるほどに体調は良くなる。

「牛のエステは金要らぬ、稲わらブラシ擦るだけ」見違えるほどにきれいになった牛は恋の季節（発情）に突入する。そして子を宿すことになる。

ワクチン接種は牛飼いの義務

「予防は治療に勝る」「ワクチンは病気を防ぐ一里塚」などと機会のある度に言っているのだが、できるならばやりたくない、金がかかるなどと嫌う場合が多い。一頭、数千円なのだが、数頭まとまると現金収入の不安定な農家にとって

は厳しい状態であることはわかる。効果があるのかどうかわからない、俺のところは病気の発生がない、そんなもんに金をかけるなんて、と思うことも理解できる。しかし、病気が発生したことを考えると、その損失はワクチン代の比では

ない。それと同業者にたいしても多大な迷惑をかけることにもなる。

「転ばぬ先の杖」「安心料として」それよりの効果を信じて、生き物を飼っているものの義務として、確実に実施して欲しいものである。

体が資本の畜産経営

最近、若い人たち（40、50代）に体の不調を訴えることが多くなったように思われる。生き物を飼っていると休みがない、仕事はそんなに重労働とは思わないのだが、いろいろと問題があるのだろう。体が資本だけに、稼ぎ頭が寝込ん

でしまうと生産性もガタ落ちになってしまうようである。

原因として考えられることは

- ◎ 刺激性のある飲み物の取りすぎ、アルコール、缶入りの飲み物、たばこの吸い過ぎ等。

- ◎ 忙しさに不規則、不規則な食事。嫁さん不足もあるのかも・・・。
- ◎ 運動不足、機械力に頼ってしまう。歩く機会が少ない。
- ◎ ストレス、細かい神経を使う、孤独、生活不安、嫁さん不足・きびしいー。

